教育支援教室におけるゆかた着装体験が生徒の情緒に及ぼす影響

大矢幸江(東京学芸大学大学院) 薩本弥生(横浜国立大学)

1．研究の背景

不登校の小・中学生の支援
教育支援教室

↓

学校復帰や社会的自立につなげる
安心して身をおける「居場所」になる

↓

小集団の中でさまざまな体験活動を実施
［コミュニケーション力を養う
自己肯定感を向上させる］

文部科学省： 教育支援センター整備指針

2．研究の目的

教育支援教室「びなるーむ」（海老名市教育委員会）

- 「びなるーむ」の活動の目標
  ゆかたの着装で日本の夏の季節感を体験する
  日本文化に触れながら連帯感、仲間意識を育てる
- 研究の目的
  ゆかた着装や納涼体験が、伝統文化への意識や連帯感、仲間意識などに及ぼす影響を明らかにする

ゆかた着装 納涼体験 → **①伝統文化に対する意識**
②連帯感、仲間意識 自己肯定感への効果

3．研究の方法と活動のようす

①「びなるーむ」活動の一環 ➡ 夏休み前にゆかたの着装　平成27年、平成28年の新たな試み

- **平成27年**　生徒(男子3人、女子3人)　スタッフ6人

講義(着物の歴史、ゆかたについて等)→着つけの示範を見る→各自で着装→ゲーム等を楽しむ→たたむ

⇔

- **平成28年**　生徒(男子3人、女子5人)　スタッフ5人

着つけの示範を見る→各自で着装→**かき氷、ヨーヨー釣り(納涼会を楽しむ)** →示範を見て各自たたむ

- **スタッフ教員への半構造化インタビュー**

生徒の日常のようすや本活動による生徒の情緒面の変容について調査

生徒からの回答は困難！ スタッフ教員より

- **参与観察**

話を聞く生徒

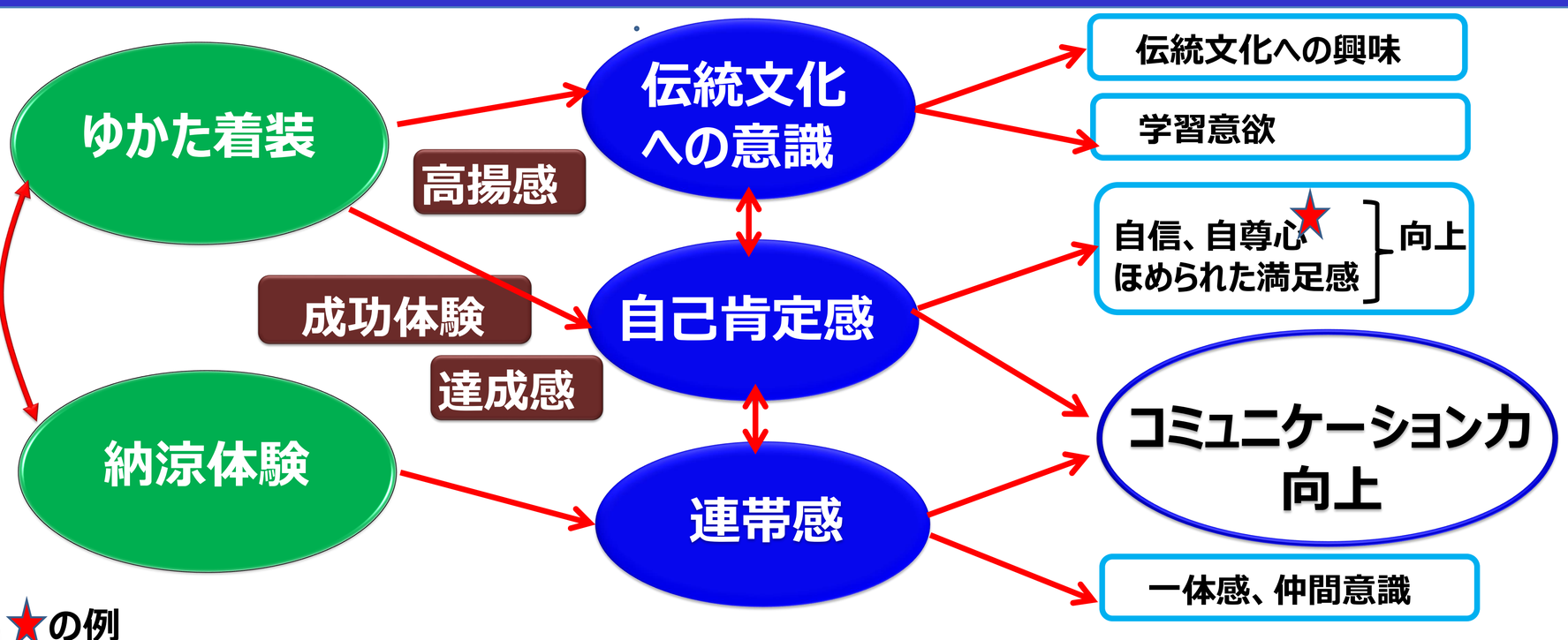
着つけの示範

各自で着装

納涼会を楽しむ生徒

4．結果と考察

インタビュー結果



ゆかた着装 納涼体験

↓

教育支援教室の目標達成につながる活動

参与観察

★の例

女子生徒A子の例：ゆかた選びの時から様子がおかしかったA子が、納涼会の始まるころ泣き出してしまった。ゆかたの柄選びで納得していなかったことや、着装のときにスタッフが手伝い過ぎたことが原因であるとわかった。ゆかたを選び直し、他の生徒と異なる帯結びを教え、自分で着装させることで落ち着いた。問題行動のように見えるが、ゆかた着装へのこだわりと強い意欲の現われと捉えることができた。

2年間の比較

平成27年　導入部分で 「講義を聞く」
学校の授業を思し、意欲が下がる生徒がいた

⇔

平成28年　「夏祭り」イメージの体験重視型
人ごみが苦手な生徒も思う存分楽しみ盛り上がる

体験による連帯感、自己肯定感の高まりがコミュニケーション力の向上につながった ↗ 今後の成長に期待